



琉大でSDGs

SDGsとは2015年9月に国連サミットで採択された17個の国際目標で、2030年の達成に向けて世界で様々な取り組みが進んでいます。今最もクローズアップされているものである一方で、本質的な理解は進んでいるのでしょうか？

SDGsの宣言文にある

「世代を超えて全ての人が自分らしくより良く生きられる世界を」というキーワードからSDGsの世界観を理解し、大学として何ができるか考えてみました。

SDGsと琉球大学、SDGsと沖縄。

西田…SDGsが掲げるアジェンダは極めて創造的で時代と歴史を踏まえていますが、もっと大きな視点から物事を考えることにもつながります。グローバル化が進み、人間は物事を地球規模で考え、未来を見通すことができるようになりました。そこで自分は何ができるか、という視点で考えていくことが大事だと思います。

島袋…SDGsは長い間国連を中心にして議論されてきた人権と保障の国際基準に重きを置いています。沖縄では人権と環境のレベルが非常に低く、国際レベルに上げることは夢物語のように言われますが、これは本来ならば最低限の基準。実現しなければならぬ社会的基盤なのです。この認識を大学で共有しなければいけないですね。

沖縄の若者たちとSDGs、そして若者のために琉大ができること。

羽賀…沖縄の高校生は、SDGsの17のゴールのうち、まずは「貧困」、次に「平和と公平」に興味があるようです。全国版だと「地球温暖化」や「気候変動」といった環境系が多いので、これは沖縄の高校生の一つの特徴かもしれません。



琉球大学学長
西田 睦

「
学長
西田 睦
×
教育学部教授
島袋 純
ファシリテーター
羽賀 史浩
」



教育学部教授
沖縄SDGsに関する
万国津梁会議委員長
島袋 純

島袋…「貧困」「平和と公平」に大きく関わる「人権」は学ぶのも教えるのも非常に難しい。例えば、日常的に米軍のヘリコプターが小学校の上を飛んでいると、小学生は教育を受ける権利が侵害されているという感覚を持ちにくい。無意識の暴力、構造的な暴力がここにあります。しかしSDGsに照らし合わせてみることで、おかしいという「気づき」が生まれる。SDGsは我々が置かれた立場を客観的に国際的な基準で見えていくという非常に重要な手段を与えてくれます。だからSDGsを学ぶことは人権教育にもつながると思います。

西田…確かにそうですね。我々はSDGsについてさらに研究し、琉大での取り組みや自らの位置付けを世界に発信していく必要性があると感じています。

羽賀…先日、琉大でSDGsシンポジウムがありました。学生の発表は素晴らしいものでした。学生が主体的に動き出せる環境が琉大にはある。SDGs的な教育を行う場としての琉大はいかがでしょう？

西田…最近の学生はすごく積極的になっている。子どもの貧困問題を解決するためのアプリを開発した学生は、自分には開発スキルがないので、シラバスを検索し、工学部の先生にアプローチし、そこからネットワークを広げ、かなり短い間で凄くいいアプリを作り上げました。

このような学生の存在には希望が持てるのですが、逆に大学側が学生にがっかりされないようにもっともっと展開しなければ、と思うところでは。

島袋…キャップストーン型という課題解決型の授業が必要です。私が担当している「政策立案能力強化プログラム」という授業では、沖縄市に学生を派遣して政策立案をさせています。SDGsにおいても能動的に動き、ネットワークを広げ、自分で課題解決をして世の中に貢献するという態度が非常に重視されますので、大学でその能力を身につけ、地域に必要な人材となり、どんどん地域に出ていくことを期待しています。

西田…キャップストーン型授業というのは凄く重要ですね。大学院も修士論文を書いて終わりではなく、実践的な課題解決型のトレーニングを最後の仕上げにすることが必要かもしれません。

※キャップストーン：ピラミッドの頂上の石。
大学では、学修や課外活動などの、これまでの学びの総仕上げをするプログラム

沖縄県のために琉大が貢献できること。

羽賀…沖縄県もSDGsの取り組みに力を入れています。島袋先生は、その検討委員会の委員長です。今、沖縄県ではどのような議論がなされていて、それに対して琉球大学はどのような貢献ができるでしょうか。

島袋…SDGsに関する内容の共通認識と啓発活動。これが沖縄県の喫緊の課題です。SDGsに関する難しい用語をわかりやすく変換し地域社会に還元することに大学は貢献できるでしょう。また、企業やNGO等ステークホルダーパートナーとの連携も重要です。

西田…県が「SDGs普及パートナー登録制度」を作ったときに琉大はすぐに登録しました。貧困や差別などの重い課題に悲壮感を持って取り組むのではなく、明るく前向きに励まし合いながら取り組むことが重要ですね。

実際に琉大生はどんな思いを持って、どんな活動をしているのでしょうか？ 続きは28ページへ。



研究推進機構
研究企画室上席URA
羽賀 史浩